

平成 27 年度

建設現場見学会感想文

- 徳島県立徳島科学技術高等学校 -



一般社団法人徳島県建設業協会

< 現場見学会感想文 >

徳島科学技術高等学校／平成 27 年 11 月 5 日

- 1. 鳴門渦潮高等学校鳴・大津 寄宿舍新築工事建築工事**
- 2. H26 街路工事（徳島東環状線）**
- 3. 平成 26 年度 沖洲高架橋下部（その 1）工事**
- 4. 平成 26 年度 小松島地区 C1 ランプ橋下部工事**

【環境土木コース】

○甲斐健太

今回、現場見学会ということで、いろいろな現場の見学をしました。最初に渦潮高校に行き、作業の工程を見ました。鉄骨にネジをとめるという作業は簡単そうに見えました。しかし、作業を体験した生徒は道具を重そうにもち、難しそうなお顔をしていました。これを現場の方たちは簡単にこなしていて、改めて技術者への興味がわきました。現場の方たちは安全第一を重視し、快適な職場を作っていました。作業をする上で安心できる環境はすごいと思いました。

次の現場は、建設中の高速道路でした。説明を聞く中で、1番印象に残ったのが鉄筋の塗装でした。作業で空気に触れている部分の鉄筋は、塗装されていました。ほかにも部分によって鉄の種類を変えていて、部分ごとにも考えられていてすごいと思いました。

それから、姫野組の工事現場に行きました。一番驚いたのは大きいユンボがあったことです。自分は、小型車両しか乗ったことがないので、すごくのりたくなりました。現場では、掘削作業をしており、学校で習ったことのある鋼矢板など聞いたことのある単語が出てきて、説明をよく理解できました。最後の現場では、高速道路の柱の部分の作業をしていました。板などで型枠を作っていました。そこにセパレータなどで固定し、コンクリートを流し込むと聞きました。授業で理解できる範囲、習った事を想像するだけでは現場では役に立たないと思い、今回の現場見学会で、実際の作業の流れを理解できました。知識も大切ですが、経験は、もっと大切だと知りました。

このような経験ができたのも、現場の方々や、建設業協会、学校の先生方のおかげです。この経験を将来いかせるようにこれからも努力していきたいと思いました。

○掛尾智史

今回の207、208HRで行った現場見学会は、土木施工の授業で習っている基礎工などを見学させていただきました。この基礎工は土木の仕事をする上で欠かせないところです。この基礎工は杭を打ち込み地盤を固めマンションや学校、土木構造物などの建物を支えることです。

今回が初めての現場見学会だったので少し緊張もしていましたが、現場の作業員の人達が分かりやすく、かつ丁寧に説明をしてくれたのでとても勉強になり、こんな現場見学会もこの高校生活だけなので、今後も、土木施工や土木基礎力学の勉強をしていきたいです。

また、僕は今度、インターンシップで北島組に職場体験学習に行かせていただきます。今回の現場見学会を次のインターンシップに生かせると思っています。

現場見学会で見せていただいたものは、場所打ち杭工や沖洲高架橋下部の工事現場や、鳴門渦潮高校の寮の工事現場を見ました。しかし、どこの現場を見学しても、近所の家や人々に迷惑をかけないように振動、騒音をあまり出さないような工夫をしています。また、初めて見るような機械や作業などとまだ自分では分からないような世界が広がっていました。だから、この現場見学会を通して、近い将来、現場見学会に来た高校生などに教えられるようにしたいです。

本当にいい経験になった現場見学会だったと思いました。

○川口真矢

207HR と 208HR の合同で 4 箇所現場を見学しました。最初の現場は鳴門渦潮高等学校寄宿舎でした。現場の方が初めに資料を配って僕たちに説明してくれました。説明の中に施工で習ったものが出てきました。『今やっている勉強がこういう仕事をするのに必要なんだ』と改めて実感することができました。

説明の後、ボルト接合の体験を何人かやらせてもらいました。まず一次締めを行い、マーキングし、ピンテールが破断するまで締め付けマーキングが正常であることを確認して完了です。一次締めは、カチッと金属音が鳴るまでゆっくりと締め付けます。マーキングはマジックで印を付けます。そして本締めをしてマーキングが正常であるかどうか確かめるという作業でした。なかなか面白そうな作業だなと思いました。その後、工事中の現場を見学させてもらいました。どこにどういう部屋を作るかわかるように「トイレ」などという感じで紙が張られていました。

最後に現場の方が三角スケールをくれました。製図のときに使うことがあるので嬉しかったです。工事はただ造るだけではなく少しでも快適に、そして衛生の問題や女性の方への配慮も考えて工事をするものだと知りました。

今回の現場見学会を通して、勉強を今まで以上に頑張らないとだめだという気持ちになりました。現場見学会のことを今後の学習でいかしていきたいです。

○古高瑞樹

11 月 5 日木曜日に、現場見学会へ行った。

最初に、鳴門渦潮高校へ行った。実際に体験をさせてもらったり、寮を建てている内部を見せてもらったりした。今まで経験したことがなかったことばかりだったので、とても良い経験になった。次に、橋を建てている現場の見学に行った。これも、普段では絶対に見ることができない橋の断面を見ることができた。橋の建設の方法などを見たり聞いたりすることができた。3 番目に行ったのは、高速道路の建設の現場の見学をした。すごく大きな穴が掘ってあったり、とてもきれいに掘削されている溝があったりして驚いた。最後に、小松島インターチェンジの建設の現場の見学をしにいった。ここでは、ものすごくたくさんの建設機械があって、その中には自分が操縦できるものがあったり、いつも日常で見かけることが多いものがあったり、今まで生きてきて、一度も見たことがないような機械があったりしてとても面白かった。

その中でも、1 番印象に残ったのはクレーンの建設機械だ。最大までクレーンを伸ばしていないのに、長さが 20 メートル以上は越していたので、とてもびっくりしたし、とても興味がわいた。

最後にこの現場見学会を通して、今まで見たことがなかったものや、経験したことがなかったものを実際に体験することができたので、とても充実した時間を過ごすことができた。忙しい中、仕事をとめてまで、僕たちにこのような貴重な体験をさせてくださった会社の方々にとっても感謝しています。この見学会に行く前は、あまり建設関係の仕事には興味はなかったけど、実際に現場の様子を見て見ると、とても興味がわいてきた。とても良い経験をすることができてよかった。

○齋藤一平

今回の現場見学会は将来のことを考える良い体験でした。普段、教科書で見えていたけどやはり現場で見るのではぜんぜん違いました。

最初に行った渦潮高校の建設中の寮では強力ボルト接合と言うのを見せてもらいました。現場の人たちはすごいスピードで締めていたので驚きました。そのあと、寮の1階を見させてもらいました。作る予定の場所が書かれていました。

次に、僕も普段からよく利用するしらさぎ大橋に行きました。橋を1つ作るのに費用がどのくらいかかるのか全く知らなかった僕は資料を見て驚きました。僕の予想をはるかに超えていたからです。橋の上からは建設中の橋脚が見えました。

次に、沖洲に行きました。ここでは、僕たちが授業でしていることをしていて、今回作業自体はしていませんでした。でも、現場の人からいろいろな話を聞くことができました。来年の3月の終わりが完成予定と言うことなので完成したらもう一度見にこようと思います。

最後に、小松島の現場に行きました。ここではタイヤローラーなど重機が置かれており、自由時間は主に重機を見させてもらいました。とても大きな重機が2つ置かれていました。

今回の現場見学会で僕の将来してみたいなと思っている職業に近かったのは渦潮高校でしていたような仕事です。それから、重機を動かす仕事も良いなと思っています。

今回、学んだことを将来につなげられるようにしたいです。

○十河雅依篤

初めて現場見学に行きました。始めは渦潮高校に行って寄宿舎を見ました。外装はほとんどできてきれいでした。内装の方はどこにどの部屋ができるかの区分しかされていませんでした。見たのは1階だけだったので2階の方も見てみたかったです。

外では鉄骨を繋ぐ作業の体験もありました。一次締め→マーキング→本締めの順番でする作業でした。一次締め用と本締め用の電動レンチが勝手に止まるのがすごいと思いました。そこでは最後に記念品で三角スケールを貰いました。物凄くいい物を貰ったと思います。

次にしらさぎ大橋につながる東環状高速道路の現場に行きました。そこでは道路をつなげる作業をしていました。片側の断面を見ました。あまりよくは見えませんが少し見ただけでもいい体験になったと思いました。

3ヶ所目はあまり工事が進んでいなかったですが、授業で習った基礎工事が直接見ることでよかったです。

最後に行ったところには見たことのない大きさの重機がいくつかありました。あんなにちかくで見たのも初めてで迫力が凄かったです。いろんな重機を動かしてみたいのであのサイズの重機もいつか動かしてみたいです。

4ヶ所まわった中で1番自分に合うのは1番初めに行った宿舎の現場だと思いました。橋や高速道路なども魅力的で造ってみたいとも思いましたが1人でも造れるものを造れるようになりたいです。今回の現場見学はものすごくいい経験になったと思います。

○太尾維吹

今日の現場見学会で良かったことは、工事現場に入り、現場の詳しい説明をしてもらえたことです。僕は、夏休みに県が開催したバスインフラツーリズムに参加しました。でも、そのバスツーリズムは中学生や普通科の高校生を対象にしたもので具体的な説明しかなかったので、今回の現場見学会はととてもためになりました。特に、外路工事での説明と小松島地区C1ランプ橋下部工事の説明が良かったです。外路工事の見学は、夏にあったバスツーリズムでも見学させてもらいましたが、今回の見学より説明が簡単だったので良かったです。小松島地区C1橋下部工事の現場見学では、施工の授業で習ったことを実際に現場で見えて良かったです。教科書の写真でしか見ることのできないものを、実際に目にすることで理解を深めることができたので良かったです。

今回の現場見学会で少し残念だったことは、現場の作業員が実際に働いている姿を見られなかったことです。わざわざ、自分たちのために、作業を止めて説明してもらえるのはありがたかったけど、作業員たちが真剣に作業をしている現場の空気を味わってみたいかなと思いました。

夏のバスツーリズムや今回の現場見学会では、普通は立ち入ることのできない場所に入れてとても楽しかったのでこのようなイベントがあれば、積極的に参加し、色々な現場を見学し、色々な仕事を見て将来の就職の時のために視野を広げておきたいかなと思いました。

今回の現場見学会で見学したことは、これからの授業や実習に役に立つので、とても有意義な現場見学会でした。今回の見学し学んだことを授業や実習に生かしていきたいと思います。

○高橋翔吾

環境土木コースになってはじめて大きな現場見学会に参加した。4つの現場を回ったが、それぞれの距離が遠かったのでバスでいる時間が長かった。

4つの現場では、授業で学んだ内容をさらに詳しく勉強することができた。それに加え、実際に仕事をしている現場まで見学できたのでいい経験になった。欲を言えばもっと質問を積極的にできればよかったと思う。

1つ目の現場は鳴門渦潮高校の宿舎を作っていた。中に入ると意外と広くて驚いた。完成した様子を想像するとすごくワクワクした。

2つ目の現場は、橋の工事をしていて。橋と言えば土木というイメージを持っていた。なので、知っている言葉もたくさん出てきておもしろかったし勉強になった。また、就職について具体的に考えることもできた。

3つ目の現場は、高速道路の工事をしていて。高速道路というと今や誰もが利用するととても便利なもの。だからしっかりしたものを作らないといけない。そういうところにやりがいを感じた。

4つ目の現場も高速道路関係の工事をしていて。自分も土木なので将来的には、いろんな人が使えて便利だと思えるものを作れるようになりたい。

今回、現場見学に参加してとてもよかったと思う。やっぱり、こういう経験は普段の学校生活では味わえないのでどんどん参加していきたいと思った。また、高校生活もあと少ししかないので限られた時間を最大限に生かしていきたい。まずは、授業でやっていることのもっと詳しく勉強していきたい。

○武田将弥

今日あった現場見学会では、鳴門の渦潮高校の寄宿舎新築工事現場の見学や、沖洲に高速道路の工事を見学しに行きました。はじめに行った鳴門渦潮高校の寄宿舎新築工事の見学ときには、高力ボルトの接合の説明や建物についての説明を受けました。このとき、ボルトを締める順番や位置があることが今回の現場見学会で分かりました。そして、工事現場ではいろいろな仕事をする人がいることが分かりました。後半には建てている寄宿舎の中に入れてうれしかったです。

次に行ったのは、しらさぎ大橋の工事現場でいましている作業や、どのような目的でつくられているか説明をうけました。橋は、コンクリートと鉄のハイブリットになっていることを分かりました。この橋にはいろいろな改良や工夫がされていました。橋脚と上部工を剛結（ラーメン構造）にすることで、ゴム支承が不要で経済的で、維持管理面で優れているようで、耐久力も上昇しているそうです。橋の建設現場に行くことができるとてもうれしかったです。僕は小さいときからものをつくるのが好きだったのでわくわくしました。

次は、マリンピアの近くでつくられている高速道路の現場に行きました。家が近くだったので少し関心がありました。その後、説明が終わって柱を立てられるところに行きました。教科書でしか見たことのなかったものがたくさんあったのにうれしかったです。最後は小松島の工事で、新しくつくる高速道路の一部で、機械やどの位置に柱が立てられるか説明をうけました。

今回の現場見学会では、教科書などでしか見たことなかったことがたくさんあったので、今回のことを踏まえて、来年の就職にいかせるようにしたいです。

○谷井篤史

11月5日に現場見学会があり、鳴門渦潮高等学校の寄宿舎、徳島東環状線の街路工事、沖洲高架橋橋下部工事、小松島地区C1ランプ橋下部工事の四ヶ所の現場を見学させて頂きました。

渦潮高校寄宿舎工事では、作業内容や工事の流れを詳しく教えてくれました。工事の流れだけでも12個あり驚きました。一番印象に残った説明は、安全衛生の取り組みについてのお話です。「無事故・無災害」を最大の目的とし、交通誘導員の配置や安全教育の徹底を心がけていることにすごく感心しました。体験学習では高力ボルトの接合を体験させて頂きました。カチッと音が鳴るまでゆっくりと締め付ける一次締めを行いマーキングし本締めをする手順で体験しました。

徳島環状線の街路工事では、張り出し施工についての説明を聞きました。張り出し施工とは、作業台車を既設主桁コンクリートにワーゲンアンカーにて固定する新設主桁コンクリートの荷重を受け持たせて主桁を製作していく方法です。実際に作業台車で工事している所を見せて頂けたので貴重な経験が出来ました。

沖洲高架橋下部工事では、高速道路で四国を八の字で繋げる「四国8の字ネットワーク」という事業のもと、橋桁製作を3基作っていました。残念ながら工事している所を見ることができなかつたけど工事の途中経過を見ることができたので良かったです。

小松島地区C1ランプ橋下部工事では、施工の時間に学習したトレミー管や鋼矢板の実物を見ることができました。施工の知識がまだまだ不足しているので、もっと勉強を頑張らないといけないなど実感しました。教科書で習うより実物を見て習うと、凄く分かりやすかったです。

今回の現場見学会を通して、今後の進路や就職活動に向けて良い経験ができました。安全第一に楽しく仕事ができる会社に就職したいと思う気持ちが強くなりました。

○徳元聖樹

今日は、初めて現場見学会というものに行きました。一番印象に残っているのは、最初に行った渦潮高校です。レンチを使って一次締めと本締めを体験することができました。いつもの学校生活では使えないような機械を使ったので楽しかったし、良い経験になりました。宿舎の作りかけの一階部分を見ることができました。いつも見ているのは、出来た後の建物ですが、作り途中の建物の内部を見るのはとても良い経験でした。

2番目にしらさぎ大橋につながっている、街路工事の工事現場に行きました。びっくりしたのが、請負金額が¥518,400,000という見たことのない額でびっくりしました。現時点で施工完了しているのが、まだ三つと全然進んでないのがわかりました。完成も凄いい先なのできつい仕事であることがわかりました。側面図がわかりやすく描かれていたのでまだ少しは理解できました。

昼からの二つは、姫野組の現場に行きました。1つ目に見たのは、沖の州高架橋下部工事を見ました。ここは、まだ本格的に着工していなかったのであまりわかりませんでした。授業で習った場所打ち杭がささっていたので実際に見えてよかったです。機会があれば、工事がもう少し進んでいるところを見てみたいです。

2つ目は、小松島地区C1ランプ橋下部工事を見ました。大きなクローラクレーンがありました。近くに行くと思っているより大きかったのでびっくりしました。施工内容は図でよくわかりました。

今日は、いつもの学校生活では学べないことがわかったり、授業で習ったものを生で見たり実際に行ってみないとわからないようなものが見えてよかったです。この経験を就職試験や学校の授業・実習で生かしたいです。

○西 星夜

今日の現場見学会に参加してより一層、就職への意欲がわきました。工事の現場はまだ工事に移っていない場所が多かったけど見学できて良かったです。

まず渦潮高校でのボルト締め作業は体験することはできなかつたけど初めて見る作業でボルト締めの強さと丁寧な作業に驚きました。また、きちんと締めることができたなら勝手にボルトが破断するのには驚きました。もう1つの寄宿舎建築の様子を見てやっぱりコンクリートを扱うことがこれから先必要になるのもわかりました。

2カ所目のしらさぎ大橋ではなかなか見られないピアノ線を通すシースを見ることができて興奮していました。さらに橋の横で建てていた建物の上の大きいクレーン車に興味をもちました。3、4カ所目の現場を担当していた姫野組はインターンシップでお世話になるので先に見学できて良かったです。インターンシップでは建設業がどのような仕事なのかを学び就職先を決めるための一歩にしたいです。現場見学会だけではまだまだ情報は足りないなので、しっかり学んできたいと思います。今回の見学会でも身になる情報があつたので参加できて良かったです。

○西浦悠人

今日は、現場見学会に行きました。建設業協会の人たちが付き添いで来てくれました。

まず初めに、徳島渦潮高校に行きました。鉄のネジをまわして締める体験をしました。初めての体験で少し緊張しましたが、思っていたよりも簡単で安心しました。ネジを締める順番はうちから順に締め、途中にきちんとマークをいれるという事も教わりました。僕が体験をしたのは垂直に上から締めることしかしていませんが、本当は側面や裏側とかもすごくいっぱいしているのを考えるとすごいと思いました。それと、作業着は基本腕まくりをしてはいけないそうで、作業着の半そでが学校にはありますが、現場ではないということも教えてくれました。その後は、徳島渦潮高校の建設中の建物の中をみさせていただきました。自分の想像していた通りの『ザ・現場』という感じでした。

次は、しらさぎ大橋の現場に行きました。橋の現場は初めてで車でも通ったことのない場所ですごく新鮮な感じで・・・とにかくすごかったです。

その後は弁当を食べました。おいしかったです。

その次に、姫野組がしている沖洲の現場に行きました。ボーリングをする場所にあがらせてもらい見学しました。その場所で何十メートルも掘ると聞いてびっくりしました。

最後に、小松島に行きました。いろいろな機械があってすごかったです。

今回の現場見学会を通して、学校では学べないことや自分のためになることをたくさん知れたのでよかったです。

○秦 輝政

今日現場見学会に行った中で一番印象深かったのは姫野組の現場が印象に残っています。今授業で行っていてそれを実物で見てとても分かり易かったからです。

今日は姫野組の現場を二つ見ました。1つ目は沖州高架橋下部工事を見ました。下部断面図を見た時はとても計算されたとても細かな構造で、自分でも見てよく分かりませんでした。中堀沈設工程、根固め工程の資料を見て教科書より分かりやすく書かれていたので見ていてとても参考になりました。施工する手順は作業項目のどの部分に管理項目が入ってくるのかよく分かりました。また、道路、橋を作るにあたっての事業概要に必要な事は便利で快適で安全で豊かにする事を忘れてはいけないという事を知りました。四国のネットワークの型体についていろいろ知ってとても長いネットワークが四国中を張り巡らされているのを知って良かったです。

2つ目は小松島地区 CI ランプ橋下部工事を見て来ました。施工内容についてたくさんの絵が掲っていて分かり易くて良かったです。クローラークレーンを見ました。とても大きくて使うとなればとても難しそうな気がしました

今日の現場見学会を終えてとても良い体験をしたと思いました。今回の体験を生かしてこれからの職業決めや大学、専門学校に行く時に十分発揮したいと思いました。

また、作業している人の苦労や、物に対する考え方も自分でしっかりと理解してこれからのあらゆる時の場面でしっかりと出来て生かせる様にしたいと思います。

○平山翔太

今回の現場見学会は、僕にとって社会に出てからとても役立つ事になると思いました。

1つ目に行った鳴門渦潮高校では、その現場にいる人たちがボルトの締め方を実際にしてくれました。体験させてくれると言っていたのですが、ちょっと恥ずかしくてできませんでした。でも、とてもためになりました。その他に寄宿舎の工事をしている中に入れてもらえることができました。コンクリートをたくさん使っていました。やっぱり建物を造るのにコンクリートはかかせないものだと改めて思いました。

2つ目に行った現場は、しらさぎ大橋の工事をしているところを実際に見せてもらいました。ピアノ線を通すところやシースを見ることができてよかったです。

3つ目と4つ目の現場は、姫野組が担当をしてくれました。施工の授業でもやった場所打ち杭がありました。その他にクレーンを見せてくれました。

今回の現場見学会を通して、これから僕たちが社会へ出ていく中で大切なことが分かってきたような気がしました。作業をしている人たちの様子を見て強く感じました。また、学校の教科書を見るだけでは分かりにくいところも、現場で実際見ることによって理解や再確認することができました。それと施工主の安全の確保はとても大事なものだとおもいました。どれだけ設備が良くても住む人や使う人の命を守ることができなければ意味がありません。そういった仕事の中で、職人同士の連携がとても大切だと思いました。今回の現場見学会はとてもいい経験になりました。

○藤本宗輔

今回、初めての現場見学会に参加できてとてもいい経験になりました。

1つ目は、鳴門渦潮高校の現場を見学しました。現場では平山建設株式会社という会社がスポーツ学科の寮を建設していました。実際に建設途中の建物の中に入りました。初めて建設途中の建物の中を見学したのですごくワクワクしました。また、実際にボルト締めをしているところも見学できてとてもよかったです。それを見て将来このような仕事をしたいと思いました。また、この現場で学んだことを、進路、学校の授業などに生かしていきたいです。

2つ目の現場は、徳島東環状線を見学しました。そこでは、どんな方法で橋を作っているかを詳しく教えてくださいました。建設系に就職しようと思っているので、この現場はすごく参考になりました。それと、授業で出てきたコンクリート、鉄筋などが現場にあったのでびっくりしました。

3つ目は高速道路を作っている現場に行きました。現場では、作業が中止になっていましたが、今話題になっている杭の説明をしてくれました。現場でも杭を打ってあったので近くまで見に行きました。教科書でしか見たことがなかったので、実際に見られてよかったです。

4つ目は3つ目とよく似た現場でした。でも、すごく大きな重機がありました。あった重機の中で一番乗ってみたいと思ったのはクレーンでした。クレーンに乗れるようにしっかりと勉強をしていきたいです。

今回の現場見学会に参加できてとてもよかったです。学んだこと進路、授業などに生かしていきたいです。

○藤原昌也

今日は、初めて現場見学会に行きました。今回は4つの現場を見学することができました。

まず1つ目は、鳴門渦潮高等学校寄宿舎新築工事現場へ行きました。そこでは高力ボルト接合の体験をさせてくれました。接合の種類も3種類あると言っていました。一般的に使用されているのは摩擦接合だと言っていました。締め方にも順番がありトルクレンチで接合部の内側から外側に向かって一次締めをするらしいです。そうしなければ締め終わった後の強度が変わるからです。そして、その後には本締めを行います。普段自分達が暮らしている建物は、こういう細かい工夫がされていることが分かってとてもいい勉強になりました。

次に今回、姫野組の現場も見学することができました。姫野組はよく聞く名前だったので気になっていました。今回は、2つの現場へ行きました。まずは沖州高架下部工事を見ました。下部断面図を見ましたが細かすぎて自分には全然分かりませんでした。でも、施工手順のプリントはすごく分かりやすく書かれていました。中掘沈設工程と根固めというのがあります。教科書よりもすごく分かりやすく書かれていてとても参考になりました。

2つ目は、小松島地区C1ランプ橋下部工事を見てきました。そこはクローラーレーンというものすごく大きい機械を使っていました。クローラーレーンをあんなに近くで見たのは初めてだったので実際に見たときは、自分が思っていたよりも大きくてびっくりしました。

今回の現場見学会は知らなかったことをたくさん聞いてとても勉強になりました。今回聞いた話を今後の授業に活かせるように頑張ります。

○松倉京吾

11月5日、私たちは4ヶ所の現場をまわってたくさんの方の見学をしました。

まず1つ目は、渦潮高校の現場に行きました。渦潮高校では、機械を使って鉄骨ボルトの接合を体験しました。ボルトをしめる機械と、上の余ったいらぬ部分を、別の機械でとる体験をすることができました。この経験はきっと将来の自分に役立つと思います。

次は、住吉のしらさぎ大橋の現場に行きました。その現場では、橋の工事中でまだ完成はしていませんでしたが、迫力のあるとても大きい橋でした。この橋は新しい工法で作っているらしく、都会のほうでもあまりない珍しい工法だそうです。僕は橋を作るのにはそれほど興味があったわけではないけれど、この現場見学で興味を持ち、とてもやりがいを感じました。

午前中は2つの現場へ行き、午後は姫野組の2つの現場へ見学に行きました。

1つ目の現場は沖洲の現場でした。その現場では、最近教科書で習った所などがあり、実物を見ることができたのは僕にとって良い経験となりました。初めて工事現場に入らせてもらって、現場とはどんな場所で、どんなことをしているかなどたくさんの方のことを学べたのでとてもよかったです。

最後の現場は、小松島でした。そこではとても高いクレーンがあって機械の規模の大きさに驚かされました。ここでも、教科書にあったものなどがあり、とても良い経験ができました。

この現場見学を通して教科書だけでは伝わらない実物の機械や、現場ではどんなことをしているかなど、見たことのないことばかりで、とても良い経験になりました。この経験を来年の就職活動にかかしたいと思います。

○松鷹 彪雅

今回の現場見学会を通して、自分は皆と同じことを書いているかもしれませんがいつもの授業では文字や絵だけで勉強していましたが、実物を見ることで授業とはま全く違っていて、より学習ができたのでとてもいい経験をさせていただいたと思っています。

最初の現場では、材料を繋ぎ止めるためのボルトを工具を使って締める方法を教えていただき、始めに一時締めを行い内側から順に締め、マーカをつけて本締めをする工程を見せていただき、体験もさせてもらうことができました。それから、工事中の建物の中にも入らせていただき、本格的な体験ができました。

2つ目の現場では、白鷺大橋の道路工事を見せていただきました。業者さんの説明を聞いて下にあった模型などを見てみると、授業で習ったPC鋼や説明の中でマスコンクリートやシースなどが出てきたので驚きました。そして、実際に近くで大きな機械を使って工事をしているところもを見せていただき、新しくPCよりも強度が高いRPCを使っていることや、白鷺大橋はほかの橋とは違う構造をしているということも知ることができました。

3つ目の現場では、橋脚の基礎を見ることができ、土留めや授業で習った内容のものを多く見る事ができました。

最後の現場では、数日前に授業で習った、トレンチ工やPC鋼棒などを見ることができました。それから、大きな機械はひとつの部品ずつに分けて運んで組み立てると聞いたのが印象に残っています。

自分は、この現場見学会を通して授業とは違ったすごくいい経験ができました。だから、この経験を生かしてこれからもがんばりたいと思います。ありがとうございました。

○迎 直樹

今回の現場見学会で実際に現場に行ってきたたくさんのことを学ぶことができました。その中でも1番印象に残っている現場は最初から二番目に行った橋の現場です。

橋脚を上部工と固定することで、走行性・耐震性を向上させ、また橋脚をY型とすることでスマートな形状をつくることのできるということを知りました。従来の工法では上部工と下部工の間に特殊なゴムで作られた部材を取り付けられるらしいのですが、ラーメン構造にすることにより、ゴム支承が不要となり経済的になるということも知ることができました。説明をきいた後に実際に作業をしている所を遠くの場所からですが見てみて、なかなか大変そうな作業だと思いました。その大変そうな作業をしている職人の人達は、とてもすごいなあと思いました。

次に印象に残っている現場は、最初に行った現場です。僕は、ボルトを取り付ける作業を見るのは初めてで、けっこうあっさりと取り付けることができるのだなあと思いました。でも、生徒の子が実際にやってみるとなかなかこずっていたところを見ると、やっぱり職人技だなあと思いました。僕も就職の方に進んだ時には、このような職人技と言えるような簡単に作業をこなすことができるようになればいいなあと思いました。そして、それを今回教えてくださった職人みたいに教えていけたらいいなあと思いました。

今回でとても勉強になったと思いました。この習った体験した経験をいかし、これからの生活や将来のために努力していきたいと思います。本当にいい体験をさせてもらいよかったです。これからも、たくさん体験などをしていきたいと思います。

○森口耕輔

今回の現場見学会では、2番目に見学させていただいた徳島東環状線の「末広・住吉高架橋」が一番印象に残っています。

学校の土木施工の授業で勉強したプレストレストコンクリートを用いた橋で、従来であれば橋脚から橋脚まで鋼桁を渡していた工法でしたが、東環状線ではコンクリート桁と鋼桁を豪結した工法で美しい景観、走行性の向上、耐震性にも優れているということで強く興味を持ちました。また上部工と下部工の改良にも興味を持ちました。下部工では、T字型の下部工にゴム支承をはさみ、その上に上部工を乗せるような形でした。しかし、改良型ではY字型の下部工に上部工を剛結しています。これにより、スマートな景観と耐震性、走行性が向上しています。また、ゴム支承が不要になったので経済的でもあります。上部工ではプレキャストリブを2.5m間隔で配置した構造で、従来のものよりも軽量で橋脚と橋脚の幅を広げることができているそうです。こちらでも経済的な工法だと思います。

次に印象に残っているのは鳴門渦潮高校の宿舍の工事です。工事自体よりも、体験学習の鉄骨ボルト接合が印象深かったです。締めていく順番は内から外へと円を描くような締め方だったと覚えています。一度電動のレンチで仮締めを行い次にマーキングというペンでボルトとナットに線を入れ、そして本締めを行いました。本締めを行うとマーキングで入れた線が少しずれていました。これがすべてのボルトで一定のずれ幅だと適当だそうです。

今回の現場見学会では、教科書でしか見たことのない機械、現場の様子、雰囲気を感じ取ることができ、実際に働いている方々から直接教えていただくことができ貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

○森下風雅

今回、初めて実際に仕事現場へ見学しに行き、とてもやりがいのありそうな仕事だと思いました。最初に、鳴門渦潮高校へ行って寮を建てているところを見学させていただきました。そこではボルトのとめ方や実際に建設途中の寮の中を見せてもらいました。ボルトは、内側から外側へ向かってとめないといけないと教えてもらいました。また、建設途中の寮の中はすでにどこにどんな部屋を作るかなどが決められていました。学校が近くなのでなるべく騒音の出ない機械を使っていました。

次に、徳島環状線の建設現場に見学に行きました。そこでは、環境保全・安全性・経済性を重視した高架橋が建設されていました。また、徳島環状線の建設には新しい技術・工法が用いられていました。この工法により、10%程度経済的になり、工事期間も短縮できると知りました。

次に、「四国8の字ネットワーク」の道路の一部を建設している現場へ見学に行きました。この、四国横断自動車道は阿南市を起点に徳島市、高松市を経て大洲市に至る延長約440kmの高規格幹線道路だそうです。この道路を整備することによって、慢性的な渋滞を緩和し、安全性が向上します。また、医療機関への搬送時間の短縮や災害時の緊急輸送道路として活躍します。さらに、円滑な交通で産業活動が活性化し、観光客の増加にもつながるようです。

次に、小松島地区C1ランプ橋下部工の現場に見学に行きました。この現場では65tクローラークレーンや全周回転掘削機、10tトラックミキサーなどの大型重機が使用されていました。大型の重機を運搬するときには、パーツごとに分解して運搬するそうです。

今回の現場見学で、建設業は自分達の生活の安全や安心を支えるとても重要な仕事だと思いました。今回の見学で学んだことを生かして、これからの勉強や仕事に生かしていきたいです。

○安田大翔

今回は、現場見学会で4カ所の現場を見学させていただきました。実際に現場で工事等を見ることは初めてなので、正直緊張と楽しみでいっぱいでした。訪れて印象に残ったのは、平山建設の鳴門渦潮高等学校の新築宿舎工事でした。本工事では、「無事故・無災害」で工期内に完了することを最大の目的として平山建設は掲げていました。ほかの現場でも同じような内容を目標に掲げていました。現場で働くうえで最も重要で一番に心がけていることが私は感じることができました。安全衛生は、安全教育・交通誘導員配置・AED救急箱の設置などのさまざまな取り組みが知ることができました。さらに建設業への女性進出がめざましいことから、女性専用トイレや女性専用更衣室を設けるなど、女性にとっても働きやすい職場環境づくりに配慮されていることも知ることができてよかったです。工事現場でよく見かける周囲に囲ったパネルは「パリフラットパネル」といい、仮囲いで設置されていて現場で出たホコリ・ゴミが現場外エリアにださないようにする対策の意味が理解することができました。また、小型・大型車両機のエンジンをこまめに止める、アイドリングストップ運動も活動しており、地球温暖化の防止対策にも力を入れていることがわかりました。

宿舎内を見学する前に高力ボルト接合の体験学習を行いました。学校では実際には経験できないことなので、私にとっては非常に貴重な体験でした。ボルト締めでは、摩擦接合・支圧接合・引張接合の3種があり、すべて高力ボルトで強く締め付けられて得られる圧力で締められます。今回は、一次締めを行いマーキングし、それを本締めで仕上げをしました。接合部の内側から外側まで締めるのは授業で習いましたが生で見たのは初めてでした。従業員の皆さんがわかりやすく教えてくれるので理解しやすかったです。就職したときにも若手にわかりやすく指導してくれる人たちがいれば、その仕事にやりがいも持てるし、若い世代に技術を教え高められるとおもいました。

○山根彰将

今回の現場見学会では4つの現場を見学させていただきました。私は父が建設関係の仕事をしている影響もあり、建設関係の仕事に興味がありました。でも実際に現場を見たことがありませんでした。今回の現場見学会をととても楽しみにしていました。

1つ目に訪れた鳴門渦潮高等学校では、「無事故・無災害」で工期内に完了することを目的にしておられて、工事中にでる塵やごみなどを周りの家の人に迷惑を掛けないように仮囲いを設置していただき、月1回安全協議会・安全教育の実施や熱中症対策応急キッド・AED・救急箱の設置をしたりしておられて、とても安全で健康面でも配慮が行き届いており、もっと現場は危険だと思っていたので現場がとても快適で印象変わりました。また、近年、建設現場への女性進出が多くなってきて、女性専用トイレと女性専用更衣室を設置しておられて女性への配慮もしっかりしていました。体験学習では高力ボルト接合を体験させていただきました。1つの面に合計16個あるある高力ボルトを締めるのですがそのときに自分の近くにある締め付けやすいボルトを締めるのではなく、内側から外側へ8の字を描くように締め付けなければいけません。その後マーキングを行い専用レンチでピンテールが破断するまで締め付け、マーキンが正常の位置にあるか確認して作業が完了します。ボルト一つひとつ締め付ける順番を決めて、マーキングをし、それを確認しなければならない、とても面倒くさそうですが、そこまでこだわっている作業をされている様子を拝見させていただき、とても品質にこだわっているのかと驚きました。

今回の現場見学会では、普段、学校では見られない実際の現場見ることができました。実際の現場

は教科書を見て想像するより快適で周りへの配慮のある所でした。行ってみないと分からないことばかりでとてもいい経験ができました。

○渡邊龍河

最初は、バスに乗ってどこに行くのかと不安な気持ちでしたが、初めに行った渦潮高等学校からわかりやすく、楽しくできる体験活動までさせてもらいました。機械で強く締められたナットを自分の力でとろうとするとすごく固くて全く歯が立ちませんでした。やはり機械の力は素晴らしいと思いました。この体験でさらに建設の仕事に憧れを持ちました。だから体験したことを活かして授業を受け、身につけていきたいです。

次に、しらさぎ大橋に行きました。ここでは、橋の工事などに使う工具や部品などを教えていただきました。そこからは自分で見て気づいたことを質問するというものでした。橋をつくるのにチューブが埋め込まれていて何かと気になっていたらそこにセメントミルク的なものを流し込むというのを聞きました。でも僕にはまだわからなかったなので、少しずつ覚えていきたいと思いました。奥ではすごく大きな機械を使っていて、いずれ僕も動かせるようになりたいと思っていました。だからもっと多くの勉強を積んで覚えていきたいです。

次は建設センターでご飯を食べました。笛ももらえて嬉しかったです。

その次に姫野組のお話を聞きに行きました。ここでは少し歩いたところに工事現場がありました。穴があり、何なのか質問することができなかつたのが残念でした。また機会があれば話を聞けたらと思っています。

最後に小松島地区のところに話を聞きに行きました。入ってすぐのところすごく大きな機械で、話を聞いたところによるとこの機械は分解して運ぶそうです。しかもその機械が鳴門市大麻町のもので親近感が湧き嬉しかったです。

本当にお忙しい中、教えや、体験までさせていただいてとても勉強になりました。一日ありがとうございました。

○明石萌花

私は、今まで工事現場を間近で見たことがあまりなく、知識も何もない状態で見えてきていたので、建設業はきつくてしんどくて、大変でめんどろなイメージでした。今日の現場見学会にあって実際の現場は大変で難しそうなどころもあったけど、みなさんどこか誇らしげでかっこよくて、自分の仕事に自信を持っている、そんな印象が残りました。

全部で4箇所の現場を見て回ったけど、女性の方がいると思っていなかったの、2つ目の現場で見たときはびっくりしました。張り出し施工について教えてもらい、実際に作業をしているところを見ると、仕組みがとてもよくわかりました。教科書だけだと理解できなかったと思います。いただいた資料を見ると、梁の名前や、どのように荷重がかかっているのか、どの部分がどんな役割をしているのかがとてもわかりやすかったです。

徳島環状線には、新技術・新工法を活用しているというのは、資料を見ればすぐにわかります。たとえ土木施工について知らない人でも、仕組みや利点がわかると思いました。

最後に行った場所では、普段近づくことができないクローラークレーンやタイヤローラーを間近でみることができました。施工の教科書に載っていたので、なんとなくイメージはできていたけど実物はとても大きくて圧巻でした。運ぶのは大変そうだなと思っていたら、解体して運ぶと聞いて納得しました。あんなに大きいのが公道を走っていたらびっくりするはずですし、カーブを曲がる時に、大惨事に成りかねないからです。

今進路のことで悩んでいます、何かものを作れる仕事がしたいと思うようになりました、今回の体験を活かして、今後の職業選択をしていきたいです。

○中尾 歩

今日、建築コースと合同で現場見学会に参加しました。渦潮高校、末広・住吉高架橋など、4つの場所に行きました。中でも私が1番心に残っているのは、渦潮高校での現場見学です。まず体験学習で、高力ボルト接合の手順を実際にやりながら教えてくださいました。そして、生徒も何人かやらせてくださいました。機械はとても重そうだったけど、みんな上手でした。高力ボルト接合は、一次締め・マーキング・本締めの3つを行うそうです。一次締めは、カチッと音が鳴ればきちんと締まった証拠です。必ず内側から外側に向かってしないといけないそうです。マーキングは、ここまで締まっているよというしるしです。本締めは、ピンテールがとれるまで締め付けます。バラつきがあるかどうかを確認し、大きなバラつきがある場合は不適合です。日頃行われている作業を間近で見たのは初めてだったので、このような体験ができて良かったです。渦潮高校では他にも、建設中の寮を見学しました。トイレ・風呂・学習部屋など1つ1つの部屋をテープで区切っていました。『これからどんどん部屋っぽくなっていくのだな』と思うと、とてもわくわくしました。

他の場所では工事現場を見せていただき、どのようなことをしているのか、いつ頃完成するのかなど、詳しく説明しててくださいました。初めて見る機械ばかりで、想像以上に大きかったり太かったりしました。操作が難しそうなのに上手に乗りこなせていて、さすがだなと思いました。今、授業でバックホーの実習をしているけれど、私はとても下手で動かしたいように動かすことができません。レバーはたった2つなのになかなか覚えられません。いつか思い通りに動かせるようになりたいです。

今日の体験はすべて貴重で、いい思い出になりました。今後の実習や授業に、学んだことを生かしていきたいです。

○中川華乃

私は、この現場体験学習を体験してみて、一番印象に残っているところが1番最初に行った平山建設です。平山建設の現場は鳴門渦潮高校の寮を建設している最中で、その忙しい中見学にお邪魔させていただくことができました。どのようにして作業をしているか、実際に器械を使って体験することができました。内容は高力ボルトの接合の手順で、トルクレンチという器械を用いて内側から外側に音が鳴るまで一次締めという作業をしました。そして白のペンでマーキングをして最後に本締めをしました。職人の方たちはベテランなのでとても手馴れた感じでしたけど生徒の子がしているのを見たときやっぱり難しそうだなと思いました。すると平山建設の方から女の子も体験してみませんか？と一言くださったので、私は女子一人だけ体験させていただくことができました。トルクレンチという器械の一次締めは思ったより重くて苦戦してしまいましたが、平山建設の方はとても優しく丁寧に教えてくれました。私もいい体験だ！と思ってマーキングと本締めまで全部体験しました。していると案外簡単だなと思いました。職人さんたちがしているのはこれよりもっと大変で忙しいことなので、毎日毎日暑い日も寒い日も外で頑張っているのは本当にすごいなと思いました。

最近では、女性でも実際に現場に出て仕事をしている人がいるみたいで、女性用の更衣室があったりとても進化しているなと思いました。この現場見学に参加して私はやっぱり、建設業関係の会社に就職して事務系の仕事をしたいと改めて思いました。事務系の仕事の仕組みはまだよく分かりませんがこれから進級して就職する時に自分の行きたい職につけるようにしたいです。今回は3つの会社の見学に行くことができるとてもいい体験ができた日になったと思います。ありがとうございました。

○松永晴華

4ヵ所の建設現場を回って全部に共通すると思ったことは、1つ1つに作業を怠らず丁寧に作業をすることです。材料や機械も十分気をつけて使用しないと事故が起きて危ないです。このように神経を指先まで使わないといけない仕事で大変だけど、すごくやりがいのある仕事でもあるなと思いました。

鳴門渦潮高校では施工の授業で学んだ高力ボルト接合を実際に行っているのを見ました。作業は簡単でも機械が重そうでした。一次締めと本締めをする専用の機械があって現場の人がしているのを見ると、1回1回線を抜いたり入れたりしていたので、何か理由があるのかと疑問に思いました。

東環状線の現場ではPC工法を使用していました。PC工法はがちがちに引っ張って固める工法のことです。徳島でこの工法を使用するのは珍しいと聞きました。一本の束あたり300tもの引張り強度があるのにすごく驚きました。その他にも、ワーゲンアンカーやピアノ線などがあり、より一層教科書で出てきた内容が理解できたと思います。

午後からは小松島で建設中の2ヵ所の橋を回りました。2ヵ所とも姫野組が手掛けていました。1つ目の場所は阿南から徳島東を結ぶ橋の建設現場でした。80m先に杭打ちするために大きな土地を広く深く掘っていました。この橋が完成するまでは約30年かかると聞き、一つの橋を作るのにそんなに長い年月がかかるのだと思いました。

2つ目の場所はランプ橋の橋桁を受ける土台を施工し、橋脚を支えるために地中に杭基礎を行う内容でした。65tもあるクローラークレーンで、ケーシングチューブ建込みやトレミー管建込みと重機1つで色々な作業をすることが出来るみたいでした。切梁式土留め工法で使われる矢板などもありました。積み上げられた石の使い道としては、大きい粒は地面にしいてほこり止めとして使い小さい粒は、舗装などとそれぞれ違う場所で違った用途があることを初めて学びました。

【建築コース】

○井浦魁星

今回、4つの建設現場を見学させていただきました。最初に行ったのは渦潮高校の宿舎の新築工事の建設現場でした。この現場では、最初に職種や作業内容や工事の流れを教えてくださいました。次に、現場で安全に作業するための取り組みや建設物の品質を上げるためにしている取り組みについても教えてくださいました。そして、ボルトの接合のやり方の説明を受け、その中の高力ボルト接合を実際に体験させていただきました。最後に建設途中の宿舎の中を見せていただきました。宿舎の見学をした時に地面にメモなどが書かれていてすごく細かい所までしっかりしていてすごいと思いました。

2つ目に行った建設現場は、安宅の環状線の建設現場に行きました。僕は、道路などの工事を見るのは初めてで、建設現場は少し遠い所でしたが、少し嬉しかったです。この現場では、橋の上部工と下部工をラーメン構造にして、基礎工は鋼管ソイルセメント杭を使うなどして、耐震性をよくしたり、維持管理をしやすくしていました。また、この橋には従来の工法ではなく、安全で経済的などのメリットがある改良型で橋を立てています。将来、橋などの規模の大きいものを作るのに関わってみたいと思いました。

3つ目の現場は、高架橋下部の建設現場で、快適さや安全性、産業活動、観光など、様々な事に気を使って建てられていました。僕もたくさんの人々の役に立つものが建てたいと思いました。

4つ目の現場も橋下部の現場で、すごく大きな重機がありました。あの重機を使って何をするのか気になりました。

このような現場見学会を開いていただき貴重な体験をする事ができました。

○池野 颯

今回の建設現場見学会で最初に行ったのは、鳴門市大津町にある鳴門渦潮高校です。ここでは、配布された資料を見ながら説明を聞きました。敷地の調査から屋外付帯工事まで分かりやすく教えてくださいました。この現場には女性専用トイレや更衣室が設けられていると聞いて、最近の女性の現場進出に対応ができていて、快適な職場造りが出来ていて工夫されているのを感じました。その後、ボルト接合の説明をして下さり、数名の生徒が実際に体験しました。ボルト接合にも順序があり、上手に出来るには時間がかかりそうでした。破断されたピンテールを持つと、思っていた以上に重く驚きました。次に建設中の建物内を見学しました。地面にテープが貼ってあり、それぞれの部屋を区切っていました。そこで現場の方が間仕切壁の説明をしてくださいました。建物内の部屋の完成形を想像するととても興味が湧きました。

2番目に行ったのは、徳島環状線に向かいました。まず、説明があり、その後歩いて工事中の現場が見える所まで移動しました。すると、大規模で危険そうな作業が行われていて、ひやひやしながら見学しました。詳細は分かりませんが、着実に作業が進んでいて完成が楽しみになりました。

3番目に行ったのは、徳島市南沖州に向かいました。まず、資料を使い丁寧な説明をしてくださいました。その後、歩いて現場まで向かいました。すると、教科書で見たことのある景色がありました。実際見てみると大きくて迫力がありました。最後に、小松島市へと向かいました。ここでは姫野組の方が説明してくれました。現場には大きな重機を間近で見ることができ、感激しました。

今回の現場見学会で現場の方の詳しい説明で学んだことが沢山あるので、この体験を糧にこれからも沢山の事を学びたいです。

○沖野匡祐

4つの現場を見学した中で、一番興味が湧いたのは、渦潮高等学校寄宿舎新築工事現場の見学でした。鉄骨造・地上3階建・建築面積432.04㎡・延べ面積1271.70㎡という少し大きい建物でした。現場の方に工事の概要として、直接仮設・土工などの工種や、やり方を始めとした作業内容などを説明していただきました。事前に準備して頂いていた資料には工事の流れの写真をカラープリントされていてとても見やすく、よく理解することができました。安全衛生についての取り組みは、女性専用更衣室を設けているというのが他の現場であまり見たことがなかったので、いいと思いました。技術的な面では、高力ボルトの接合の仕方で圧縮力を用いている、摩擦接合・支圧接合・引張接合の三種があることを知りました。体験させていただいたのは、高力ボルトを摩擦接合するというものでした。現場の方々が1つ1つ丁寧に手順を教えてくださいましたのでとてもわかりやすかったです。最後に実際に建築物の中を見てまわりました。中を見ると、どこに何の部屋があるのかわかるように印があり、資料の平面図と照らし合わせやすくてとても見やすかったです。2階、3階も見れたかったです。

東環状線の現場では、県内でも珍しいPRC構造というもので興味を持ちました。しかし、とても複雑で手順や仕組みを、頂いた資料を見ても少ししか理解できませんでした。こういう機会がせっかくあったのに自分の知識不足で勿体無いという気持ちと同時に、もっと勉強しないとイケないということを感じました。

残りの2つの現場はあまり作業が進んでいませんでした。今後、作業が開始されたらまた見学したいと思いました。

今回の現場見学会では、日ごろの生活ではなかなか学べないことを学ぶことができました。他にも今後の自分の課題も見つかり、本当にいい経験になりました。

○片山幸翼

建設現場見学会に参加して、教科書でしか学んだ事のないものを実際に見て体験した事はとても良い体験になりました。あまり分からなかった事も、実際に見てみると良く理解する事ができました。

1ヶ所目の鳴門渦潮高校は、家の近くで工事をしている事は知っていましたが、何を建てているのかは知りませんでした。ここでは、ボルトの締め方を教わりました。一次締めをして、マーキング、そして最後に本締めをするのを初めて知りました。僕はボルトを締める体験をしました。交互に締めていくと、どの場所を締めたのか分からなくなってきました。でも、とても楽しかったです。

2ヶ所目の徳島環状線の街路工事では、すごく難しい内容であり理解できませんでしたが、この工事が完成すると渋滞が少なくなり交通面でとても便利になる事はわかりました。川をまたいでいたので、どうするのか最初は分からなかったけど、説明を聞いて少しずつ分かるようになりました。

3ヶ所目、4ヶ所目の沖洲と小松島の橋下部工事ではまだ工事が見学のために止まっていますが、この工事が完成する事で四国内の交通が良くなる事を知りました。そして、大きな機械がありました。どうして運んだのか疑問に思っていると、機械を分解して運び、現場で組み立てるという事を教えてもらいました。

僕は将来、設計士になろうと思っていますが、現場の人がいなければただの紙になってしまうので、今回の現場見学会で、現場で働く人のすごさを改めて知ることができてよかったです。また、このような機会があれば積極的に参加して自分の力になるように一生懸命に頑張っていきたいです。建設現場見学会に参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

○久禮羽 心

まず、1つ目の建設現場は、鳴門渦潮高校学校の宿舎でした。そこではボルト接合の体験をさせてもらいました。普段学校では見ることのない作業を直に見ることが出来てとても良い経験になりました。現場の中も見せてもらい、実際の工事現場はどんな風に仕事をしているのか見えたので、とても参考になりました。

2つ目の街路工事現場は、普段の授業では習わない橋の工事現場だったので、とても興味深く、おもしろかったです。ピアノ線を使って橋を作るなんて聞いたことがなかったのでとても驚きました。

3つ目の沖州高架橋下部工事と4つ目小松島地区C1ランプ橋下部工事はどちらも、姫野組がしている工事現場でした。あんなに大きな現場をまとめる現場監督はとても大変だろうなと思いました。それと同時にカッコいいなとも思いました。しかし、どちらの現場も工事が止まっていたのが少し残念でした。

今回の現場見学会で、色々な工事現場を見ることで建設業への関心がさらに大きくなりました。

僕は将来設計をしたいと思っています。そのためにはもっと建築の勉強をしっかりとしなければいけません。僕も将来あんな大きな建築現場に携わりたいととても強く思いました。この建設現場見学会で得た貴重な経験や、学んだことをこれからの学校生活に役立てて行きたいです。また、これから設計士になれるように、勉強をもっと頑張って、もし建設現場見学会に参加することがあれば、沢山メモを取って沢山質問をして、憧れの設計士になれるように頑張ります。

○柴田竜稀

この現場見学では、普段の授業で見ることのできない経験をさせてもらい良い経験になりました。

今までは、建築専門のことしか習っていなかったのですが、建設業全体について分からないことがたくさんありました。この見学会を通して、建設業について多くのことを学ぶことができました。建設業では、住宅やビルだけを建てているものだと思っていましたが、道路や橋などの公共物も建設業に入っていることが分かりました。授業では、住宅の構図や地盤などのことしか習っていませんでした。橋を支えている脚部のことは分からなかったのですが、内容はよく覚えていませんが、公共物にも興味がわきました。

この現場見学では、まず初めに鳴門渦潮高校の宿舎を作っている現場を見学させてもらいました。鉄骨のボルト締め作業では、どこの箇所から締めてもよいものだと思っていましたが、きちんとした締め方があり、内から外へという感じでとめていることが知ることができました。次に行った所では、橋を作っている現場に行きました。橋を作る現場を見たのは初めてで、前々からどう作っているんだろうという疑問はありましたが、この現場見学で知ることができて、とても満足しました。もう2箇所現場見学に行きましたが、そこでは、橋で車の通る道路を支える脚部を作っている現場でした。この現場で思ったことは、住宅やビルなどのどんな建築物、建設物に共通していることで、地盤がきちんとしていないとどんな建物も建たないということが分かりました。あまり地盤は関係ないと思っていましたが、この現場見学ではどの作業もとても大事な作業のひとつということが分かりました。

この現場見学で得た経験や学んだことを来年の就職試験に役立てていきたいです。また、次に現場見学に行くときは積極的にメモをとったりして、知識を増やしていきたいです。

○戸田暁仁

今回の建設現場見学会は、建築のことと土木のことの両方を見学することができました。

始めに行った渦潮高校の寄宿舎新築工事では、まだ勉強をしていない鉄骨造について高力ボルト接合の種類や作業手順などを知ることができ、今後鉄骨造について勉強をするときに、理解しやすくなると思いました。また、1つの作業をするためには多くの工程があることが分かりました。建物内の見学では、完成すると見ることのできない部分を見ることができたので勉強になりました。

2番目に行った徳島東環状線の街路工事では、どのような順番で作業を進めるか、橋脚を少なくするためにどのようにしているかなどを知ることができてよかったです。また、作業手順や作業台車の仕組みを細かく知ることができたので勉強になりました。都市計画決定をされたのが平成七年だったので決定してから作業を始めるまでにとっても時間がかかるということが分かり驚きました。

3、4番目に行った沖洲高架橋下部工事と小松島地区C1ランプ橋下部工事も作業はあまり進んでいなかったけれど、作業に入る前に矢板の高さを決めるなどの重要な作業があることが分かりました。また、杭工事で杭を80メートルも下に打ち込むということに驚きました。杭を打つための機械の配置が決まっていることは初めて知りました。区間距離が長いので完成するには時間と手間が多くかかり、とても大変な作業だと思いました。

今回の建設現場見学会では、建築物と橋の両方の見学をすることができてよかったです。特に、橋についての勉強をすることがないので、実際に橋ができる現場を見学することができてとても貴重な体験だったと思います。また、建設現場で見たことや体験したことを、これから建設のことについて勉強するときに役立てられるようにしたいと思います。

○中原綾真

今回は現場見学会で4つの現場の見学に行きました。

1つ目の現場は鳴門渦潮高校の寄宿舎でした。そこでは、寄宿舎の定員80名ということや、1階2階3階の部屋の説明を受けました。体験学習では、高力ボルト接合の手順を教えてもらいました。一次締めでの締め方にもてきとうに締めるのではなく、内から外に締めていくこと。マーキングでは全ての本数をマーキングすること。本締めではマーキングのずれに大きなばらつきがあれば不適合になることなど、授業では学ぶことのできない貴重な体験ができました。

2つ目の現場では住吉の街路工事でした。そこでは、道路を増やすことで渋滞を減らすことや、徳島東環状線がRC構造ではなく、PRC構造でつくられていること。そして、PRC構造にすることによってRC構造よりも大きなスパンを飛ばすことができること。また、巨大なクレーンによって橋が組み立てられていくさまは迫力があり、建築では学ぶことができないことを、学ぶことができました。

3つ目と4つ目の現場は高速道路を作っている現場でした。3つ目の現場で四国8字ネットワークを作り四国東南地域への移動時間の短縮や医療機関の到着が早くなるなどのメリットを得られること、丁張という位置と高さを決めることができるものについて教えていただきました。

次の4つ目の現場では、クローラークレーンのクレーン部分は大きすぎて直接現場に搬入することができないため、現場に搬入するときはコンパクトにして持ってきて、現場で組み立てます。

今回現場に行ってみて、現場の人に質問したりして将来の自分が何をやるかのプランを考えなければと思いました。僕は将来進学する予定ですが、現場の雰囲気を理解することで、現場の人の気持ちを理解できる設計士になりたいです。また、このような見学会があればぜひ参加したいです。

○弘田雄大

今回、4つの現場見学に行きました。

1つ目は、鳴門渦潮高校の新寮の建築現場に行きました。ここでは、高力ボルトの体験学習がありました。僕もそこで、高力ボルトの体験をしました。一次締めから本締めまでさしてもらいました。一次締め用のドリルや本締め用のドリルがあることを始めて知りました。僕は、どちらも同じドリルでしていると思っていたので、驚きました。一次締めでは、終わるとドリルが勝手に止まるので、すごいと思いました。本締めは、ドリルで締めていると、ピンテールという金物が破断するまで締め付けると、一次締めの後に、付けたマーキングが少しずれていて驚きました。ナットにも締める順番があり、その通りにしないと鉄骨がずれてしまうと聞いたので驚きました。寮の内側は、まだ作業が進んでいなかったですが、壁厚など墨付けがされていて、どこに何がくるのか、分かりやすかったです。

2つ目に、徳島東環状線の街路工事に行きました。ここの工事では、しらさぎ大橋から末広大橋をつなげる工事をしていました。ここでは、作業台車がありました。始めて見たのですごいと思いました。作業台車が移動しているところも見なかったです。

3つ目、4つ目に沖州高架橋下部と小松島地区C1ランプ橋下部工事に行きました。ここでは、作業があまり進んでいなかったです。しかし、矢板の高さなどを決める工事をしていました。クローラークレーンをはじめて見ました。大きさに驚きました。クローラークレーンは、大きすぎて分解しないと作業現場まで持っていけないと聞いたときは驚きました。

今回、僕たちが回ったところはどれも工事に欠かせないもので、1つ1つが初めて知ることばかりで、楽しかったです。また、機会があれば行きたいです。

○福永航希

11月5日に建築コースと土木コースで、建設現場見学会に参加しました。

まず、鳴門渦潮高等学校の現場を見学させてもらいました。印象深かったことはボルト締めを教えてもらったことです。現場の職人さんが前で作業しているところを見てかっこよく思いました。鉄骨の接合部分を作っていたので、細かかったけど、どれだけ大切な作業なのかを感じました。工事中の現場を拝見しましたが、一面コンクリートで部屋分けをしていたので、次の作業がどうなるのか気になりました。

次の現場では橋を作っている現場でした。交通量の多い現場では工事するのも苦労だと思いました。まだ、作業中なのでよく分からなかったですが、橋の下に川が流れていたため、今後の作業がもっと苦労するだろうと思いました。

次の現場は工事を行ってなくて作業が見れませんでした。土を掘っていて次の手順などの印をつけていて、土台を作るためなのかと思いました。毎回行く現場で目にしたのは、プレハブの近くに本日の仕事内容や注意事項や作業をする人の氏名や資格などが記入されていました。僕はそれを見て作業していく上で、技術だけではなく、現場でのチームプレイであったり、自分の役割分担はとても大切だと思いました。やはり、建築現場では危ない仕事も多いので、そういった面でも計画的に作業しているのだと思いました。

今回の現場見学では、学校での授業で役に立つものが多かったと思います。企業の方々も、お忙しい中見学会を開いてくださって本当に嬉しく思い、感謝しています。ぜひ機会があれば、もう一度見学をしたいと思いました。今回は、貴重な体験をさせていただき有難うございました。

○武間圭吾

この建設現場見学会に参加していろいろないい経験ができました。

まず、初めに行った鳴門渦潮高校の新築工事現場ではボルト締めのことを聞きました。一部の人はボルト締めの体験をさせていただいて初めて見ていろいろなことが分かりました。初めはボルト締めの工具があることも知らなくて、一次締めと本締めの2回もすることも初めて聞きました。現場の作業員の人は正確で手早くしていたので、すごいと思いました。また、地球環境にも影響を少なくするために、いろいろなことを考えていることについてもすごいと思いました。

次は、安宅の街路工事の現場に行きました。そこでは、全国でも珍しいPRC構造の作り方の道路を作っていました。今までは鉄筋コンクリート造で道路を作っていると思っていたのにほかにもPRC構造という作り方があったとは知りませんでした。

次は、沖洲高架橋下部の現場に行きました。そこでは、地盤を掘削した現場を初めて見る事ができました。教科書でしか見たことなかったけど、実際に現場に行ってみると、教科書を見て思っていたこととは全然違うように見えました。

最後に小松島地区C1ランプ橋下部工事の現場に行きました。そこでは、大きな機械がたくさんあって初めて見るものもありました。あんな機械を近くで見たり触ったりできてとてもよかったです。

こんな経験はあまりできないと思うので、今回のことを忘れずに、これからの学校での学習も頑張っていきたいです。そして、将来はこんな素晴らしい現場で働くことができるようになりたいと思いました。また、このような見学会などがあったら積極的に参加し、体験などもさせてもらいたくさんのことを学んでいきたいです。

○丸山晶洸

私は、この建築現場見学会を通して、学校の授業では学べないことや、授業で学んだことを実際に見て回ることができて、とても良い経験にもなったし、建築にもっと興味が湧いてきました。

最初に行った鳴門渦潮高等学校の寄宿舎新築工事の現場を訪れたときは、宿舎は2度目でしたが、前回の徳島寮とは少し違い、1階には、浴室や談話室など、仲間たちとの絆を深めたりする部屋が多いと感じました。2階には、その生徒の寝室があると、聞きました。また、思っていたよりも延べ面積が大きかったのでとても驚きました。

2つ目に行った街路工事はわからないことが結構多かったのですが、ほとんどがコンクリートでできていることや、PRCが使用されていることなど、学ぶこともあったのでよかったです。また、生で見るのは初めてだったので、面白かったです。

3つ目の、沖洲高架橋下部では、その日は作業されておらず、少しショックでした。現場はとても難しく、何がどこに行くのかわかりませんでした。現場監督さんたちの話を聞いているうちに、少しずつわかってきたので、とてもよい経験になりました。また、道路の位置と高さが大事ということも教えていただいたので、覚えておきたいと思います。

最後の現場は、姫野組の方々が行っていたので、とても楽しみにしていましたが、また現場が作業してなかったのが少しショックでした。また、クレーンなどの機械では、20メートルくらいで作業することが多いと聞いてよかったです。

今回は、4つの現場を見る事ができて、とてもよい勉強になったと思います。このようなことをこれからの生活にも活かしていけるようにしたいです。

○山崎礼雄

今回の建設現場見学会は土木コースと4ヶ所見て回りました。

まず、鳴門渦潮高等学校鳴・大津寄宿舍新築工事建築工事の内の建築工事を見学させていただきました。宿舎の中を見る前に説明などを受けボルトを締める作業を見せてくれました。ほぼ全身体験できて僕もやるつもりだったのですが、ちょうど僕の前で終わってしまいました。残念でしたが、貴重なものを見れたと思います。

次に、徳島市安宅2丁目の住吉島川の環状線の街路工事を見学させていただきました。ここの現場はかなり大規模で環状線をぐるっと一周繋げるという作業でした。僕はあまり橋のことを詳しく知らないので興味を持っていませんでしたが、今回の見学で少し興味を持ちいつか環状線が繋がればもっと楽になるのだらうなと思いました。

3ヶ所目の現場は、南沖州にある沖州高架橋下部工事の現場の様子を見学させていただきました。まだ重機等も動いていなくて作業も始まっていませんでした。しかし、これからそこに道路ができると思うと楽しみです。

最後の現場は小松島地区C1ランプ橋下部工事させていただきました。ここの現場には、今回見てきた中であまりなかった重機が沢山あり、興味をととても持てる現場でした。この場所に道が通ると、賑やかになるのだらうなと思いました。しかし、残念なことに作業をしておらず作業をしている姿や重機を動かしているところを見たかったです。この現場見学会を通して教科書では学べないことやあまり見えないものを見れてとても良かったです。また、このような機会があれば参加したいです。

○米田乃斗

建設現場見学会に参加して4つの現場を訪問しました。

1つ目の現場は、鳴門渦潮高等学校の鳴・大津寄宿舍新築工事を見学させていただきました。ここでは、一次締め、マーキング、本締めを生で見、体験させていただきました。平山建設の人は、仮囲いの設置や朝礼、工事車両規制表示交通誘導員の配置、提示物による啓発などさまざまな安全面に対して配慮していました。さらに、衛生環境にも、AED・救急箱の配置や熱中症対策、女性専用更衣室を配慮し、近隣の方々の迷惑や社員の人たちの安全衛生についての取り組みをしっかりとっていました。建築工事の内容は、鉄骨に耐火被覆を吹き付けているところを見てとてもいい経験になりました。

2つ目の現場は、住吉川の上の橋の工事を見学しました。橋の上の工事だったので基礎の部分がしっかりしているということが分かりました。この工事現場では、とても学んだことが多くとてもよい現場見学になったのでよかったです。

3つ目の現場は、南沖州の工事現場に見学しに行きました。布掘りをしていたので、施工の授業で学んだことが出てきたのでよかったです。これからも、授業を熱心に取り組み、このような現場見学のとときに覚えて発表できたらいいです。

4つ目の現場は、小松島地区C1ランプ橋下部工事というところに見学に行きました。ここでは、重機のことについて皆がいろいろ質問していました。重機も、施工の授業で出てきたので勉強したかがあると思いました。この橋は、安全面に気を使い、ここに橋ができるとより便利になり、観光や産業活動に貢献できるのでとても楽しみです。

この建設現場見学会に参加できてとても勉強になったのでよかったです。

○猪頭彩香

最初は鳴門渦潮高等学校の寄宿舎新築工事建築工事の現場へ行きました。まず驚いたことは、寮内の部屋がほとんど男女別々だったことです。談話室なども男女で別れていてすごいと思いました。工事現場では、業者の方が機械の名前や作業の仕方等、丁寧に教えて下さりより深く理解できました。

次に驚いたことは、ボルト接合を上、横、下、にすることや、マーキングをすることです。このような作業は建築ではしないと思っていましたが、建築でもすると初めて知りました。

次に行った街路工事の工事現場では、橋の作業手順や施工方法などを知りました。私のわかりづらい質問にも優しく丁寧に説明をして下さいました。普段触れることのない橋について学ぶのは貴重な体験をしたなと思いました。

お昼から行った沖洲高架橋下部工事の工事現場では、橋脚が立つ前の状態や見上げるだけで首が痛くなるくらい巨大な機械など見たことがないものも多く、とても新鮮でした。工事現場は意外と小さく見えたのですが、思いの外大きく、しかも請負金額が高く聞いて想像もつかない金額に驚きました。私たちが見た作業の現場は安全の為、作業が止まっていました。教科書を見ただけでは分からないことが、現場を見ることで理解ができました。

今回の現場見学会ではそれぞれの工事現場の方々に大変お世話になりました。また、詳しく説明もしていただき、普段見られない現場をじっくりと見ることができ、貴重な体験ができました。大規模な建設工事を進めるに当たり、作業員皆様のご苦労がよく分かりました。今後も安全第一で頑張ってください。この度は貴重なお時間をありがとうございました。

○宇田このみ

今回の建設現場見学では、普段、学校では学べないことがたくさんありました。教科書に載っていてもよく分かっていなかったことが、実際に自分の目で見て説明を聞くと、なるほど、と思えることがほとんどでした。私は将来、現場ではないけれど建築関係の仕事をしたいと思っています。学校で学べること以外に、現場での仕事を直接見て勉強できる機会があることに、とても感謝しないとけないと思いました。今回、4ヶ所の現場を見学させてもらうことができ、その中でも午前中の2ヶ所がとてもおもしろかったです。

1ヶ所目の鳴門渦潮高等学校寄宿舎新築工事現場見学会では、私たちが普段授業で描いているような平面図など、たくさんの資料を用意していただき、とても分かりやすかったです。鉄骨ボルト接合を実際体験できたり、楽しむこともでき、勉強にもなりました。将来、自分たちが描いた図面がたくさんの人たちの手で造られていくのを想像して、本当に建築の仕事はやりがいのある仕事だと思いました。寄宿舎に住む生徒のことを考えた造りもすごいと思いました。

2ヶ所目の徳島東環状線、末広・住吉高架橋の現場見学では、一般の人が入れないような橋の上に行くことができ、建設途中の橋を見れて嬉しかったです。私は建築コースなので橋の勉強はしたことがないけれど、橋が好きなので、現場の人に分からないことを質問したりできておもしろかったです。資料にイラストなどがあって、最終的に橋がどうなっていくのかがとても詳しく載っていて分かりやすかったです。現場には女性の人もいてかっこいいなと思いました。

3、4ヶ所目の現場では、初めて見るクレーンなどがあり、これからこの場所に新しく道ができていくのが楽しみだなと思いました。建築関係の仕事は、たくさんの人が協力してやっとひとつの物が完成します。将来、私もその一員になれるよう、今からもっと勉強していきたいと思いました。

○大西広華

今回私達が訪れた現場は、鳴門渦潮高等学校・寄宿舍新築工事、徳島環状線・街路工事、南沖州地先・沖州高架橋部、小松島区C1ランプ橋下部工事の四つでした。私はその4つの現場の中でも、1番印象に残っているのは、徳島環状線・街路工事です。

構造はPRCで、従来のコンクリートより強い特性があるそうです。PCはひび割れを発生させない構造である代わりにコストが高く、ひび割れを許容しないために大きな力を与える必要があり、その力が構造物全体に影響を与えるそうです。そこで、ひび割れの発生を前提とした鉄筋コンクリートに、補助的にプレストレスを与え、ひび割れの発生を一定幅に抑制するPRCを用いるそうです。日本全国でもPRC構造は数が少なく、珍しいようです。景観にも配慮しているそうです。都市計画道路であり、環状線を造ったことで、交通の分散がうまくできてスムーズに車両が出入りできるようになって、渋滞も緩和できたそうです。

私達がいつも通っている道路や橋などが、長い時間をかけて、全部人の手で造りあげられたと思えば、素直に凄いなという気持ちと、自分も携わってみたいという気持ちになりました。大きな建築物を建てるには、たくさんのお金、人、技術、時間が必要ですが、出来上がった時はそれらを兼ね揃えた素晴らしいものを得ることができると思います。

私の将来の夢は設計士になることです。住宅の設計をしたいと思っていますが、このようなスケールの大きな建築物の設計も手がけてみたいと思いました。人の手で造りあげるということは夢があるし、何より月日が経っても残るので、本当にやりがいのあることだと思いました。

現場見学を行ってから、益々「建てる」ということに興味が湧きました。いつか自分で設計して、建てた建築物を家族に見せて、おお！と言ってもらうのが私の最終目標です。

○岡川真穂

11月5日に建築コースと土木コース合同で建設現場見学会に参加しました。

まず、始めに鳴門渦潮高等学校の寄宿舍新築工事を見学しに行きました。残念ながら現場の工事を行っているところは見れませんが、鉄骨ボルト接合の体験を数名させていただきました。私が、この現場を見学させていただいて一番印象的だったのが女性専用の更衣室が設けられていることでした。女性の現場で働く方もたくさんいらっしゃるって聞いて、すごくカッコいいなあ、と思いました。

そして次に、街路工事の見学に移りました。橋の工事を行っている現場を初めて見たので、とてもわくわくしました。この街路の構造は、PRCという日本全国でも滅多にない構造になっていると説明がありました。PRC構造は従来のコンクリートより強いということで、コスト面や様々な問題面が解決された後、世界の建築で今よりもっと使用されるようになってほしいと感じました。

3ヶ所目に沖州高架橋下部工事、4ヶ所目に小松島地区C1ランプ橋下部工事の見学に行きました。何分間か自由に現場を回れる時間を設けていただいて、教科書に載っていた図や絵などを自分の目で見ることができました。

今回の現場見学会では、今まで知らなかった事や教科書で学んだ事と現場で実際に見たものが一致した部分もあり、自分の知識としてたくさん吸収することが出来ました。現場で工事の説明をして下さった現場監督の方は、建築の仕事は、とてもやりがいのある仕事だとおっしゃっていました。その話を聞いて、私も早く建築に携わる仕事がしたいと思いました。自分の将来の夢に向けて頑張れるいい刺激となった現場見学会でした。

○岡澤亜由奈

「建設現場見学会」に参加して、気づいたこと、学んだことがたくさんありました。まず、最初に見学をした徳島県立鳴門渦潮高等学校寄宿舎新築工事現場で、ボルトの一本締め、マーキング、本締めといった作業を実践しながら学びました。実際に体験はしていませんが、体験していた人を見ると初めのボルトを留めるときは、みんな少し戸惑っているように思えました。現場作業員の方の説明を聞いたときは、「作業手順を覚えることができれば誰でも簡単にできそうだな」と思っていました。安易な作業ではなかったみたいです。作業手順を覚える他、力も必要とされ、頭も力も働かす作業でした。この作業は工事現場の一部の作業であると思いますが、とても重要な作業だということがよく理解でき、同時に、工事現場における全ての作業の大切さに気づくことができました。

次に見学を行った徳島市安宅2丁目の街路工事では、橋の上から工事作業の様子を見学しました。ずっと前から、橋など、川を挟む建物はどのようにして作業しているのか気になっていたのですが、実際に目にしたとき、おもしろいと感じました。そして、工事を開始する日から、工事が完成する日まで一部始終を見てみたいと思いました。着々と出来上がっていく様子を見ることで、建物の偉大性に気付きそうだからです。おもしろさと興味が湧き上がる体験でした。

最後は、橋下工事を見学しに、小松島地区C1ランプ橋下部工事現場と、沖洲高架橋下部工事現場へ行きました。実際に工事をしているところは見れませんでした。土木系の施工内容や、構造の仕組みを学びました。授業では習っていないことがたくさんあり、新たな知識として、自分に取り入れることができました。また、工事現場にあった重機には圧倒されました。このような建設現場の見学は、私にとってとても貴重でこれからの活動に活かしていける、いい体験でした。

○榎本若奈

今回、建設現場見学会に参加して、普段はあまり見ることでできない場所や作業をたくさん見せていただいて、とてもいい経験になりました。学校の授業では、教科書の図や写真でしか見たことがなかったもので、新鮮で面白かったです。

今回は4つの現場を見学しましたが、どの現場も見学できてよかったと思いました。鳴門渦潮高校の寄宿舎新築工事では、鉄骨ボルト接合を実際目の前でしていただいたのがすごく印象に残っています。ボルト接合の手順で内側のボルトから締めていくことや、マーキングをすべてのボルトにしていくことなど初めて知ったことばかりでした。以前行った徳島寮の新築工事の現場と建物内の造りがよく似ているところがあり、見ていて面白かったです。

街路工事では、今まで建物の構造を主に学んできたので、橋の構造や施工手順、実際に建設されていくのを見たりするのは新鮮でした。建物とは違って、荷重のかかり方や抗力などが複雑そうで設計するのも建てていくのも難しそうだと感じました。

沖洲高架橋下部工事では、高速道路がどういう手順で建てられていくのか気にしたことがなく、80mも掘削することや、あんなに近くで橋脚も立っていない状態でみるのは初めてで面白かったです。

小松島地区C1ランプ橋下部工事では、重機を見せていただきましたが、あんなに近く行ってみることも減多になく、こんなにも大きい機械を操縦できる人はすごいなと感じました。

どの現場でも初めて知ることが多く、たくさんのお話を学ぶことができよかったです。そして、理解が深まったことにより、建築・建設ということにさらに興味が湧き、もっと学びたいと感じました。この見学会を通してこれからの将来に向けて役立てていきたいと思いました。

○住瀬友希

今回の現場見学会では、4ヶ所の現場を見学させていただきました。いろいろな現場で説明をしていただいととても勉強になりました。寄宿舎や、橋、街路などそれぞれ違った現場へ回って見学してみても工事は止まっている場所が多かったけれど、たくさんの機械がある現場があって、あんなに大きな機械を近くで見たのは初めてだったので感動しました。

寄宿舎では、体験をさせていただける時間があつたのですが、体験することができなかったのが残念でした。また体験する機会があれば体験させていただきたいと思いました。

街路工事では、遠くからしか見ることができなかつたけれど、規模が大きさを感じ取れました。

沖洲高架橋下部工事では、現場を見て回ったり、機械を見たり、なかなか見ることができないものを見ることができたので貴重な体験をすることができました。工事現場の方々は、暑い中私たちの生活がより便利になるように毎日工事をしてくださっていると思うと「とてもすごいことだな。現場の人がいるからこそ私たちは安全に生活していけているんだ。」と思いました。

教科書でしか見たことなかつた現場へ4ヶ所も見学しに行くことができてとても貴重な経験をすることができました。人のために命をかけて私たちがより安全に、より安心して生活していけるために働いてくれている人がいると思うとありがたいことだな、尊敬するなと感じました。

これから施工管理の資格も取っていかなければなりません。この現場見学会で学んだことが役立てていけたらいいなと思いました。そして、将来就職活動をしていく際にもここで教えて下さったこと、経験したことを面接で言えたらいいなと思いました。社会にでてからも人のために働いて下さっている方々に感謝の気持ちを忘れず、自分も何か人のためになる仕事をしてみたいと思いました。この見学会はとても勉強になりました。

○多田朝美

今回の建設現場見学会では、以前見学に行ったような鳴門渦潮高校の宿舎や授業で習っていない徳島環状線、沖洲高下橋、小松島地区C1ランプ橋などの橋の工事も見学することができました。

1ヶ所目の鳴門渦潮高校の宿舎は以前見学に行った徳島寮のような造りになっていました。今回は1階のみの見学でしたが、階段やそれぞれの部屋の区分、天井に材が吹き付けてあったりして普段実際に見ることができないところが見れてよかったです。また、作業員の方が目の前で高力ボルトの接合の仕方を見せてくれました。普段は教科書の図や説明でしか知らなかつたものを自分の目で見るのができたのが一番思い出に残っています。

2ヶ所目の街路工事の徳島環状線は初めての橋の見学でした。建築では橋の勉強はしないので分からないのだろうなと思っていましたが、ラーメン構造や支保工など聞いたことのあるものも出てきて橋も住宅も繋がるものがあるんだなと感じました。

3ヶ所目の沖洲高架橋下工事は三本の橋脚を造る工事でした。話を聞いて驚いたのは、杭を支持層まで入れるのに約80mも必要だということです。授業でも杭は支持層まで入れるというのは聞いていましたが、そんなに深くまで掘らなければいけないのだと思いました。

4ヶ所目の小松島地区C1ランプ橋下部工事はあまり進んでいませんでしたが、工事用の機会たくさんありました。その機械も規模が大きく六五tのクローラクレーンや10tのトラックミキサーなど見上げてしまう程大きな機会がたくさんありました。

今回の現場見学会をこれからの学習に活かしていけるようにしていきたいと思います。

○玉川優利香

鳴門渦潮高校の校舎の現場は、普通の校舎ではなく、寄宿舎でした。現場を見学するのも面白かったですが、高圧ボルトの接合も興味深かったです。建物でよく見る部分の作業だったので、手順が見えて、細かいところが分かり、どうなっているのかの謎が解けました。一次締めをした後にひとつひとつのボルトに印を付けるのが大変だと思いました。締める順番も決まっていて、現場の方が丁寧に説明してくださったのでよく理解できました。

徳島環状線の現場では、作業員の方たちの中に1人女性の方がいました。どのような係りをしているのかは分かりませんが、実際に現場にいる女性はかっこよく見えました。今までは、ひとつの橋に何千台もの車が通っていたところを出口が増えたことによって車を分散することに成功したそうです。この橋は、良いとこ取りの材料を使っていて、そして新しい技法・工法を用いているようです。完成した橋を早く見てみたいです。

高架橋下部の橋脚は、すべて同じ会社が請け負うのではなく何脚かずつによって会社が違うようです。てっきり私は、すべて同じ会社が請け負うのだと思っていました。考えてみると、ひとつの会社で同時に何脚も建てていると効率があまりよくないです。資料にあった「施工手順」のところに書いてあった図が施工の教科書にあったのとほぼ同じに見えました。教科書に書いてあることが実際に使われているなんて、なぜか面白く感じました。

小松島の現場は、見た目は沖洲の現場と同じだと思うのですが、違うように見えました。機械も違ったように思います。この現場には、90トンのクローラクレーンがありました。この90トン運ぶために、分解して小分けにするそうです。話を聞くと「朝の何時までに現場に入れてほしい」の、時間がすごく早くて、やはり現場の仕事というのは、時間がすごく大切なのだと思いました。

○濱口夢菜

11月5日木曜日、4つの現場に行きましたが、どれも迫力のある現場ばかりでした。

鳴門渦潮高校の寄宿舎新築工事では、鉄骨造の現場でした。授業では木造の事について学ぶ事が多かったのですが、とても新鮮でした。特に体験学習の高力ボルト接合では、驚きの連続でした。まず、ボルトの数に驚きました。木造では、使わないであろう数でした。その数のボルトを手順通りに素早く締めていく職人さんにとっても驚きました。私だったら確認しながら、ゆっくりした作業になってしまうだろうなと思いました。そして、体験している人たちを見ていると、機械に腕を少し持っていかれ抑え切れていない人がいました。職人さんにはそんな素振りを見せる人は全くなかったのでここでも驚かされました。現場監督や設計士は、こういう凄腕の方たちに指示を出していくんだとしみじみと思いました。今のままで大丈夫なのか、自分みたいな新人の指示を素直に聞いてもらえるか不安になりました。今の自分の在り方をとても考えさせられました。

後の3つは、土木系が主な現場でした。建築施工で習ったものと似ているようで少し違う生の現場は知らないものも多くとてもわくわくしました。街路工事では、川の上に道を作るという、とても大変そうな現場でした。台風などの災害のときに耐えられるような計算と職人さんたちの技術はとても大事だと思いました。その人たちを従える人は、その人たち以上に努力ししっかりとした人間でないといけないのだと思われました。

こういった現場見学に行くたびに思うのは、早く就職して形に残るものを作っていきたいと思いました。そのために、今からしっかり勉強して知識をたくさん詰め込んでいきたいです。